

### 「樽前山熔岩円頂丘」は今年で100歳

樽前山の山頂中央に見える直径約450m、標高約130mの熔岩円頂丘（ドーム）は、今年で形成100年になります。

熔岩円頂丘は、溶岩の粘性が強いため流出せず、火口付近で冷えて固まったもので、樽前山には過去に2回形成されています。「古期熔岩ドーム」と記録されている初めの熔岩円頂丘は、1867(慶応3)年の噴火により形成され、1874(明治7)年の噴火により破壊されました。現在の熔岩円頂丘は、1909(明治42)年の噴火により形成されたものですが、その後崩落し、現在は頂部が平坦化して盃(さかずき)を伏せたような形をしています。

この熔岩円頂丘は学術上貴重なもので、1961(昭和36)年に市指定文化財になり、その後1967(昭和42)年に道指定文化財(天然記念物)になりました。



◀近くから見た熔岩円頂丘。黒く硬い岩石で覆われています

西側上空から見た熔岩円頂丘▶

### 樽前山の高山植物

#### イソツツジ



花は白色で高さ約70cm、6～7月に開花します。樽前山全域に咲き、特に北東斜面お花畑が白くなる景色は素敵です。

#### イワブクロ

(別名 タルマイソウ)



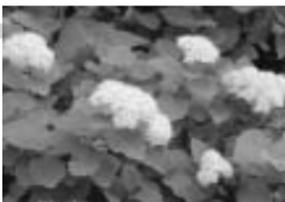
花は薄紫色で高さ約20cm、6～8月に開花します。樽前山全域に咲き、きれいな色が目を楽させてくれます。

#### ウコンウツギ



花は黄色で高さ約150cm、6～7月に開花します。7合目ヒュッテなど樽前山全域に咲くかわいらしい花です。

#### マルバシモツケ



花は白色で高さ約70cm、6～8月に開花します。北側登山口や外輪などに咲き、その名の通り丸い葉が特徴です。

### 7合目ヒュッテ管理人のお話



おおた としひこ  
太田 敏彦さん

樽前山は多いときで平日に150人、休日には500人も登る人気の山です。東ピークまで登る方が多いのですが、時間があれば外輪山を1周してみてください。樽前山神社奥宮からは苦小牧市街地や太平洋、天気が良ければ駒ヶ岳まで見渡せ、熔岩円頂丘の西側では大きな噴石を間近に見ることができます。

樽前山は季節によって山の表情が変わり、四季の変化を楽しめることが魅力です。春や夏はたくさんの高山植物、秋はナナカマドや紅葉がー帯を覆い、冬には朝日や夕日で一面の雪がピンク色に染まるなど、素晴らしい眺めになります。特に冬は自然の厳しさも体感できるので、ぜひ登ってみてください。

登山の際に心がけてほしいことは、事故を防ぐために、事前に山についての予備知識をつけ、十分な装備をすることです。また、立ち入り禁止区域には入らない、登山道以外を歩かないなどに注意して、ルールをしっかり守って樽前山を楽しんでください。

樽前山は現在も活発な活動を行っている活火山であり、来月の特集では、樽前山の防災についてお知らせします。

### 北側登山道～西ピーク コース

このコースは、北側登山道を登り、風不死岳分岐、932峰分岐、東ピーク・西ピーク分岐を越え、西ピークを目指すコースで、全行程約5時間となっています。また、こちらのコースも樽前山内輪には規制のため入ることはできません。



西ピークの山頂には、国土地理院のGPSと北海道開発局の監視カメラ(写真上右)があります。天気がよければ、南東側には苦小牧市街地(写真上中央)、932峰方面には、支笏湖が風不死岳により2つに分かれて見えます(写真上左)。東側には、熔岩円頂丘、外輪(写真右)を見ることができます。ここからの景色はまさに絶景です。

所要時間約40分

932峰分岐点より上は、岩の多い登山道を進みます。まずは、熔岩円頂丘(写真下)が見えてきます。さらに進むと、西ピーク(写真上)が視界に入ります。

所要時間約30分



932峰分岐点では、932峰頂上へと続く尾根の登山道が素敵です。

所要時間約20分

東山登山道と違い、登山道の脇には多くの高山植物があります。

所要時間約30分



北側登山道の入り口です。7合目ヒュッテ前で入山者名簿に記帳して、登山スタートです!!入り口からはしばらく森の中を進みます。

通称北東斜面お花畑と呼ばれるところです。登山道の周りにはたくさんの高山植物が咲き乱れています。撮影当日はイソツツジが最盛期を迎えていました。

登山口から約1.5kmほど進むと、溶岩が固まってできた1枚岩の上を歩きます。岩は長さ約400mの大きさといわれています。

所要時間約20分

所要時間約10分

スタート地点